

地域との対話の概要

平成 25 年 2 月 20 日
薩 摩 川 内 市

【ポイント】

1. ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、市民に対する関連施策の普及と地域の具体的なニーズを吸い上げるべく、地区コミュニティ協議会及び団体・機関等との意見交換を行った。
2. 地区コミュニティ協議会においては、市民生活関連など具体的事業を検討していく上で有益な意見等が聴取できた。
3. 一方、団体・機関等においては、学生の視点からの身近な困り事やまちづくりの観点からの具体的取り組みなどの意見等が出された。

1. 経緯

これまでのビジョン策定委員会及び地元作業部会での委員の意見を踏まえ、ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、市民のニーズを吸い上げるべく、地区コミュニティ協議会(16カ所)と団体・機関等(6カ所)との意見交換を実施してきた。

これに引き続き、更に市民に対する関連施策の普及と地域の具体的なニーズを吸い上げるべく、地区コミュニティ協議会及び団体・機関等との意見交換を行った。

2. 意見交換日程

(1) 地区コミュニティ協議会(カッコ内は旧市町村)

以下の4カ所で実施。いずれの会場も会長・役員等(十数名)が出席した。

- ① 1月17日(木):八重地区(入来)
- ② 1月24日(木):手打地区(下甑)
- ③ 1月29日(火):永利地区(川内)
- ④ 2月 5日(火):南瀬地区(東郷)

(2) 団体・機関等

以下の3カ所で実施。いずれの会場も学生・役員等(数名から数十名)が出席した。

- ① 1月24日(木):鹿児島純心女子大学
- ② 2月12日(火):大小路一水会(大小路地区商店通り会)
- ③ 2月15日(金):薩摩川内市商工会

3. 出席者から頂いた主なご意見

(1) 地区コミュニティ協議会

① 具体的な取り組みについて

- (ア) 地区内には遊休地が多いので、そこを利用して太陽光発電を行い、地区内の電気は地区内で賄えるようなことができないか。
- (イ) 太陽熱は天候に左右されることはあっても、無くなることはなく一番いい方法であるので、天気の良い日に貯蓄する開発にも取り組めばよいのではないか。
- (ウ) 木質バイオマスで、間伐材の処理など山が循環していくシステムができれば一番いいと考える。
- (エ) 甌島は働く場も少ないうえに電気代が高くなると厳しいので、自然エネルギーを活用して電気代の高騰をカバーできないか。
- (オ) 甌島は風が強く、海にも囲まれているので、風力発電や潮力・波力などの海洋エネルギーも使えるのではないか
- (カ) 種子島で実施されている芋発電のような取組は、甌島でも畑が多いので可能ではないか。
- (キ) 甌島には古い地層等があるので、「電気石」や「ヘリウム3」について大学等と調査をしてみてもどうか。
- (ク) 洋上風力は良い漁礁にもなるという話を聞いたが、甌島にはメリットがあるのではないか。
- (ケ) 街灯の設置は市の補助金を活用しているが、いずれは地元の負担が大きくなることも予想されるので、太陽光発電などうまく活用できないか。
- (コ) 今までつくった電気は貯めておくことができないことがネックであったが、蓄電会社をつくり、電気を使いたいときに使いたいだけ送電できないか。

② ビジョン等について

- (ア) 次世代エネルギーの取組は、薩摩川内市だけの問題ではないので、他の市町村や県との関係や連携は今後どうなっていくのか。
- (イ) 火力発電所がフル稼働しており、故障が発生して停電もあり得るので、それを抑えるため次世代エネルギーを考えていくのか。
- (ウ) 説明の内容は「次世代」ではなく、「現世代」でどうにかすべき話という印象に受け取れる。
- (エ) 現在、原子力発電所は稼働しておらず、マイナス面だけでプラス面はほとんどない状況であり、10年後に廃炉になったときのことも想定して考える必要がある。

③ その他

- (ア) 原子力発電所で作った電気は、山口県まで送っていると聞いたが、県内だけに供給することはできないのか。
- (イ) このような意見交換会を実施することで、市民に何を期待するのか、論点を絞って示したほうが意見も出やすい。

- (ウ) 市が実施している住宅用太陽光発電への補助等の施策は、もっとPRを強化すべきである。
- (エ) 観光面では甑島に力を入れているが、その他の観光地について、もう少し掘り下げてPRし、観光客に足を運んでもらうことはできないか。
- (オ) きゃんぱくは良い事業であり、それなりに集客もされており、今後も実施していくことで地域に活気が出てくるのではないか。
- (カ) 甑島は見るところはあるが、観光地があまり手入れされておらず、もう1回行ってみようという気が起こらない。
- (キ) 大学や高校で意見交換を実施されたとのことであるが、若い人を引き込んでやることは大事ではないか。
- (ク) 向田が賑やかになれば薩摩川内市は活気が出てくると思うが、それには原子力発電所の再稼働も深くかかわってくるのではないか。
- (ケ) これまで国や市の主導でやってきたが、今後は何か地域から盛り上げていけば長続きするのではないか。

(2) 団体・機関等

① 鹿児島純心女子大学

- (ア) くるくるバスは安くて良いのだが、遠回りしすぎるなど不便であり、車やバイクがないと困るまちである。
- (イ) 川内駅周辺にはコンビニくらいしかなく、待ち合わせや時間つぶしをする等の場所がない。
- (ウ) 実家の親等が来たときに、観光地など情報も少なく見せる場所がない。また、お店の情報もなく、わからない。
- (エ) 市内には雑貨屋が少ないが、イベントでの出展も食に関するものばかりで、雑貨屋も必要と感じる。
- (オ) きゃんせふるさとフェスタは、マンネリ化を理由に中止したらしいが、止めることを選択するのではなく、マンネリ化を打破する努力をすべきである。

② 大小路一水会(大小路地区商店通り会)

- (ア) 民間では20年の長期間の事業スキームをつくるのは困難な面もあるので、公共が積極的に民間の屋根を借りて、売電し収入を得る仕組みをつくるべきである。
- (イ) 新幹線で川内に近づくと街が暗く、川内駅も暗い印象があるので、「エネルギーのまち」らしく整備すべきである。
- (ウ) エネルギーのまちとして、行政ばかりに負担させずに、各自が家からLEDランプを1個ずつ道路に向けて照らすなど、できることからやるべきである。
- (エ) 地区コミュニティ協議会等の大きな組織ばかりではなく、このような小さな集まりにも出前講座や意見交換会を実施してほしい。

③ 薩摩川内市商工会

- (ア) 甌島のエコアイランド化で、全エネルギーを再生可能エネルギーでという試算は行っているのか。
- (イ) 原子力発電所が稼働すれば、電気代(固定価格買取制度の賦課金)は安くなるのか。
- (ウ) 九州電力から値上げに同意するかという電話がきたが、値上げされると電気代が嵩むので、値上がり分の補助はできないのか。
- (エ) 産業廃棄物処分場もできるので、他所からゴミを集めてきて発電する方法もあるのではないのか。

以上

これまでの地域との対話の中で出された具体的な取組等について

- (1) 定住対策に関し、太陽光発電等を設置した賃貸住宅を設置してはどうか。
- (2) コミュニティセンターに太陽光発電設備や、電気自動車を導入してはどうか。
- (3) 地域のニーズに応じ、太陽光、風力、小水力、温泉熱、海洋エネルギー等を活用した地域振興を進め、これらの電気や熱を地域の観光資源と結び付けてはどうか。
- (4) 防犯対策も兼ねて、太陽光発電を活用した外灯を設置してはどうか。
- (5) 市役所の公用車に関し、防災対策を兼ねて電気自動車を積極導入してはどうか。
- (6) 農産物の生産プロセスに再生可能エネルギー由来の電気や熱を活用し、生産コストを削減することはできないか。
- (7) 公共施設の建設の際に、太陽光発電設備を備えた防災拠点の整備を進めてはどうか。
- (8) 遊休地や耕作放棄地等を活用して太陽光パネルの設置はできないか。
- (9) メガソーラーのパネルの下を活用して、水耕栽培施設のような工場を誘致するなど、有効的な活用はできないか。
- (10) クリーンセンターから出る排熱を利用して発電を行い、所内の電気を賄うことはできないのか。
- (11) 次世代エネルギーは、設置費用がネックになっているので、基金を設けて設置費用を無料にするくらいの思い切った施策が必要ではないか。
- (12) 市内には山林が多いので、木材からリグニンとセルロースを分離して、バイオプラスチックを作ってはどうか。
- (13) 個人の出費を抑えるために、太陽光パネルをリースにして、一般の住宅に取り付けてもらい、蓄電や売電する仕組みはつくれないか。
- (14) 発電等の施設を活用して、薩摩川内市の入口である川内駅を活性化させ、エネルギーのまちであることをPRし、より多くの人を呼び込めないか。
- (15) 海洋エネルギーについて研究し、メディアに発表していけば話題性を呼び、市のPRにもつながるのではないか。
- (16) 作り手のいない耕作地を使ってさつまいもを栽培し、これを使って「イモ発電」を行う。売電益をコミュニティに還元し、活動費に補てんするモデルを構築してはどうか。
- (17) 新田神社等、まちが誇れる設備を再生可能エネルギー由来の電気ですライトアップしてみてもどうか。
- (18) 限界集落対策として、デマンド交通の導入や、耕作放棄地への太陽光発電の導入等を考えてはどうか。
- (19) 「日本一休まない図書館」に、太陽光発電設備等の「勲章」を与えてはどうか。
- (20) お年寄りが元気を出してもらえるよう、お年寄りだけのコンサートを開催し、その電源を再生可能エネルギーで賄ってはどうか。
- (21) 太陽光パネルを自治会館等の屋根に設置し、売電益を自治会の費用に充てる仕組みを各地区で実施する考えはないか。

- (22) 市内には良い温泉が多いので、温泉を観光産業として発展させるため、温泉への交通アクセスの利便性を図ってはどうか。
- (23) 市外から人を呼び込めるような施設(遊園地等)を整備すれば、ホテル等も1年中賑わうのではないか。
- (24) 中郷の上池と下池の落差を利用し、らせん水車等を設置して、揚水発電を行うことはできないか。
- (25) 市庁舎の廊下に、床を踏む時に発電する設備を設置して、市民等に体験やPRを図ってはどうか。
- (26) 川内港に波を利用した実験的な設備を設置してはどうか。
- (27) 木質バイオマスで、間伐材の処理など山が循環していくシステムがつかれないか。
- (28) 自然エネルギーを活用して、電気代の高騰をカバーできないか。
- (29) 甌島には古い地層等があるので、「電気石」や「ヘリウム3」について大学等と調査を試みてはどうか。
- (30) 蓄電会社をつくり、電気を使いたいときに使いたいだけ送電できないか。
- (31) 民間では20年の長期間の事業スキームをつくるのは困難な面もあるので、公共が積極的に民間の屋根を借りて、売電し収入を得る仕組みをつくるべきではないか。
- (32) エネルギーのまちとして、行政ばかりに負担させずに、各自が家からLEDランプを1個ずつ道路に向けて照らすなど、できることからやるべきではないか。
- (33) 産業廃棄物処分場もできるので、他所からゴミを集めてきて発電する方法もあるのではないか。

以上